

教科（科目）	理科	学年（系）	3年
使用教科書	未来へひろがるサイエンス 3（啓林館）		
副教材等	確認から発展へ 3年（学宝社） 新ワーク理科3 啓林（好学出版）		

1 学習目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 指導の重点

授業を核とした、確実な基礎知識の理解を図る。

観察、実験など体験を通じた技能の定着と理科への関心・意欲の向上を図る。

3 指導計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	備考	
4	単元 生命 生命の連続性	○確認から発展へ ○新ワーク ○授業プリント ○実験プリント	単元 生命の連続性	5		
5			1章 生物の成長と生殖 2章 遺伝の規則性と遺伝子	15		
6	単元 地球 宇宙を見る		単元 地球 1章 地球から宇宙へ 2章 太陽と恒星の動き	15	前期中間	
	7		単元 生命 生命の連続性 単元 物質 化学変化とイオン 単元 エネルギー 運動とエネルギー	単元 生命の連続性 3章 生物の種類の多様性と進化 単元 物質 1章 水溶液とイオン 2章 電池とイオン 単元 地球 3章 月と惑星の見え方		15
9			単元 地球 宇宙の広がり	単元 エネルギー 1章 力の合成と分解 2章 物体の運動	15	前期期末
			10	単元 物質 3章 酸・アルカリと塩 単元 エネルギー 3章 仕事とエネルギー 4章 多様なエネルギーとその移り 変わり 5章 エネルギー資源とその利用	15	
11	単元 環境 自然と人間 単元 エネルギー 運動とエネルギー		単元 環境 1章 自然界のつりあい 2章 さまざまな物質の利用と人間 3章 科学技術の発展 4章 人間と環境 5章 持続可能な社会をめざして		15	後期中間

12	物理分野 第1章 力と運動	○フォローアップ ドリル物理基礎 ○エッセンスノート 生物基礎 ○スクエア最新図 説生物 ○授業プリント ○実験プリント	物理分野 第1節 物体の運動 1 速度 2 加速度 3 落下運動	10	物理・生物 分野の既 習事項の 確認と発 展的内容 を取り扱 う
1	生物分野 第1章 生物と遺伝子		生物分野 第1章 生物の特徴 1、生物の多様性と共通性 2、エネルギーと代謝 3、光合成と呼吸	5	
2	第2章 遺伝子とそのは たらき		第2章 遺伝子とそのはたらき 1、遺伝情報とDNA 2、遺伝情報の発現 3、遺伝情報の分配	10	後期期末
3				10	

計 130 時間(48分授業)

4 課題・提出物等

- ・週末課題を中心とした課題提出があります。
- ・夏季休業中では、自由研究を実施し、レポートを提出してもらいます。優れた研究は、郡市の発表会に選出します。
- ・週末課題を中心とした課題提出があります。
- ・その他、授業や実験でのプリントの提出があります。

5 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価基準
自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	＜評定＞ 各観点の合計点 達成率 5…80%以上 4…70%以上 3…50%以上 2…40%以上 1…40%未満
以上の観点をもとに、下記の項目から総合的に評価します。 ・授業の取組（授業態度や学習活動への参加状況） ・課題への取組状況 ・小テスト、定期考査 ・実験プリントや自由研究（前期のみ）			

6 担当者からの一言

前期生としてのまとめの学年となるとともに、後期生への移行の期間となります。授業の内容も難しくなっていくしますので、週末課題などをおして、自分の理解の確認しながら学習を進めていきましょう。実験などでは、グループ内で積極的に意見を交わしながら、内容の理解を進めることが必要です。

また、計算など思考とともに、計算技能が必要な内容が増えていきます。つまづきやすい計算ミスなどをチェックしながら、学習に取り組むことが大切です。